

平成22年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属東雲小学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期 計画・中期目標) との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
教育課程・ 学習指導等	学校と家庭との相互理解、子どもと保護者と教職員との相互理解を深め、教育活動のより一層の充実を図る。		学年集会、学級集会、個人懇談、教育相談の定期的開催とその充実。	【成果指標】 小学校6年間の見通しと本校の教育方針・教育実践に対する理解と協力 【判断基準】 学年集会を4回、学級集会を4回開催 個人懇談を3回、教育相談を4回開催	学年集会5回、学級集会を4回、個人懇談3回、教育相談4回の開催。随時の教育相談とも合わせて、保護者との連携を取ってきた。VTRの活用や提供する資料の工夫など、教育活動の理解を深めるための実践が多く見られた。	A			
			保護者との連携を深める参観授業の定期的開催とその充実。	【成果指標】 学校での子どもの様子を理解する場とし、その後の集会・懇談での共通理解を図る 【判断基準】 参観授業を6回開催	参観授業6回開催。学年・学級集会と合わせて、日々の子どもの様子から保護者と今後の方針を確認しあうことができた。家庭での話題提供にもなり、保護者から好評を得ている。	A			
	『自立』をめざす宿泊学習や学校行事の充実と実践。特に「運動・健康・食・心」の一体化と充実を図る。	安全を意識し、仲間とかかわり合いながら積極的に体を動かすことを楽しむ力をめざして、運動や安全に関する行事を企画運営する。	【成果指標】 安全に気をつかいながら、おもいきり体を動かすことを仲間と一緒に楽しむ姿が増えたという教員の意識 【判断基準】 行事計画案の作成と実施・ふりかえり 教員を対象に達成度に関する意識調査(達成できた旨の意見が80%以上であること)	運動会やリズム縄跳び大会など計画・実施・ふりかえりを行ってきた。節目節目を活用しながら日々の取り組みに活かすことができたという教員の充実感を得ることができた。また、運動場で遊ぶことの意義や雨天時の運動場使用ルールなど、児童自らのアイデアが出され、主体的な活動が増えてきた。	A				
教育研究等	平成22年度研究テーマ「今、改めて授業を問う」-サブテーマ「授業力を高めるには」-の実現をめざした実践研究を行う。		研究テーマに基づく校内授業研究、校内研究発表、校内研修会を実施し、理論的研究、実践的研究を推進する。	【成果指標】 研究テーマに関する理論的研究の共有 【判断基準】 校内授業研究を10回実施 校内研究発表を1回実施 校内研修会を部ごとに1回実施	校内授業研究13回、校内研究発表会1回、校内研修会3回の実施ができた。加えて、学年部公開研究授業・自主公開研究授業も行われた。	B			
			各教科・総合的な学習・道徳・特別活動・英語活動・複式教育・障害児教育・各学年の研究を、各推進プロジェクトおよび低・中・高学年部、複式学級、養護学級、教科部を中心に推進し、まとめる。	【成果指標】 各教科・各領域・各プロジェクトごとの研究の共有 【判断基準】 部会の設定と年間5回の部会実施 各部会ごとの研究のまとめ作成	各教科・各領域・各プロジェクト毎に部会を設定し、節目ごとに研究交流を行った(小中合同職員会も開催)。日課を変更し、小中間で授業観察を可能にできたことなど9年間の学びの連続を考えた授業づくりに向けスタートが切れた。	A			
			講師(広島大学教員, 他大学教員, 教育委員会, 東雲中学校教員, 本校OBなど)の指導助言及び共同研究により研究を推進する。	【成果指標】 公開研究会における指導助言のまとめ 【判断基準】 公開研究会に向けての理論研修開催(各部設定回数) 公開研究会に向けての指導案検討(各部設定回数)研究のまとめ作成	公開研究会を6月25日に実施。理論研修は各教科毎に複数回実施、及び指導案検討を必要に応じて実施した。大学の先生との連携もとれ、的確なアドバイスをいただくことができた。研究のまとめは原稿完成であり、出版待ちである。	A			

注) 太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。

平成 年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属東雲小学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
社会連携・社会貢献活動等	より実践的な教員研修・教育実習をめざし、子ども理解、教材理解、指導方法、事務処理などの力を身につけることができる教員研修・教育実習プログラムを探る。		教育現場の多様な実態に対応できるような教育実習プログラムの具体案を実践する。	【成果指標】 現職教員および教育実習生の児童理解や指導技術の向上 【判断基準】 教育実習委員会を年間3回開催 実習プログラムの検討委員会開催(5回以上)	教育実習委員会を設け、教育実習の効果的なあり方を検討。実習生の実際に応じた指導を行うことができたという教員の意見を得ている。観察実習・本実習の成果と課題をもとに、実習プログラムの改善を継続中である。	B			
			現職教員および学部生、院生を対象とした研修会を開催する。	【成果指標】 現職教員および教育実習生・院生の児童理解や指導技術の向上 【判断基準】 研究会開催の有無(年間2回) 研究発表会開催の有無	6月25日に全校での研究発表会を実施。複式・特別支援学級の公開研究会を10月30日に開催。11月には5・6年と中1の公開授業研究会を開き、12月25日に2教科の研究発表会を開催した。大学の先生から指導助言を得、研究の継続を図ることができている。	A			
			公立小学校の指導的立場にある教員に対する長期研修を行う。	【成果指標】 指導的教員に対する長期研修実施 【判断基準】 長期研修実施の有無 研修教員に対する研究授業の実施の有無	前期長期研修生の研究授業を7月に実施。後期長期研修生の研究授業を2月に実施。教員全員で授業分析・協議会を行った。研修成果は、報告書として完成を見ている。アクションリサーチ実習にも貢献できた。	A			
学校経営・安全管理等	子どもが主体的にかかわり、心が潤い、「気持ちよく」生活できる東雲小学校づくりを行う。また、本校の教育・研究が「よく見え、よくわかり、よく伝わる」情報の発信を行う。		校内掲示を中心とした環境づくりを計画的に行う。	【成果指標】 身近な生活スペース・気持ちを整えるスペース・見通しを創るスペースが整理される 【判断基準】 年間計画案の提示 教室めぐりの実施 児童部や委員会との連携による環境整備	教室めぐりを2回実施。環境づくりに対する意識の共有化を図ることができ、その後の実践に活かすことができた。委員会活動とのタイアップで花が増え、それぞれのスペースが構築されてきた。	A			
			教育活動の記録をし、活動の雰囲気や様子がよく伝わる情報を提供する。	【成果指標】 年間計画に基づく活動記録の蓄積とその広報推進 【判断基準】 各活動後の情報提供実施(月1回、主な活動を1~2本選出) 学校のホームページ更新(随時) 活動に対する見通しや期待感を持つことができたという教員の意見	日々の活動、朝会や学校行事などホームページの更新が随時行われた。卒業生からの反応・地域の方からの問い合わせなども増えてきた。昨年度に引き続き、活動の記録は一つのハードディスクに集約され、いつでも活用できるようになっている。	A			
			緊急安全メールの円滑な運営を図る。	【成果指標】 教員・保護者の緊急連絡体制の改善 【判断基準】 円滑に行うための方策の提示と実践 確認メール返信が45分以内に95%を超えること	緊急メール発信後の返信が97%を維持されてきた。保護者の意識レベルがあがり、緊急時にも対応できるものとなってきた。	A			
その他									

注) 太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。

目標評価シート

附属東雲小学校


(教務部)

平成22年度

学校評議会資料

平成23年3月7日(月)

広島大学附属東雲小学校

学校教育目標	<p>国際社会の中で、主体的に生きる心豊かな人間の育成をめざして、たくましい体力、強靱な意志力、創造的な思考力・判断力・表現力の育成を根幹とし、道徳性という緑したたる葉と美的情操という輝かしい花をつけた実践力のある子どもを育てる。</p> <p>『落ち着きがあるなかでエネルギーが感じられる学校』</p> <p style="text-align: right;">総合評価 4・・・おおむね達成 </p>
部目標	<p>しののめ文化の確立に向けて</p> <p>子どもたち一人一人の学びを育む ー学びと暮らしの枠づくりー</p>
教師の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した日課、授業時数を確保し、整った生活づくりを行う。 ・保護者と連携しながら、安心・安全・安定を確保し、芯を育てる環境づくりを行う。 ・新教育課程の編成を行い、将来を見据えたカリキュラムづくりを行う。
達成した学校の姿	<ul style="list-style-type: none"> ① 整った学校生活づくりを行うことができている。 ・日課表の見直しを行う委員会を設け、検討内容を全体に提案している。(年2回以上) ② 芯を育てる環境づくりを行うことができている。 ・儀式行事、各種朝会などの目標を意識し、その徹底を図っている。(7割以上) ・目標を意識して集会、教育相談を実施し、保護者連携を進めることができています。(7割以上・・・夏と冬と学年末(年3回)各学年部での教師の見取り) ③ 将来を見据えた新教育課程の編成を行うことができています。 ・プロジェクトを立ち上げ、新教育課程編成を段階的に進めている。(年3回以上)
到達度(中間)	3 どちらともいえない
下半期の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事と保護者連携については、さらなる充実に向け、引き続き取り組みを継続していく。また、物的な教育環境の整備を行う。 ・プロジェクトでは、日課表・行事、外国語活動、道徳・総合・特活の各検討委員会と教務部からの提案を軸に、各教科部と共に23年度新教育課程の作成を行う。
到達度評価(年度末)	<p>4 おおむね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 日課表検討委員会を立ち上げ、問題点とその克服法について検討した。しかし、全体提案が1回で終わっており、来年度は具体的実施段階まで進める必要がある。 ② 儀式については、目標の意識化とその徹底が図られていたが、各種朝会は、時間が5分短縮されたこともあり、さらなる工夫が必要である。保護者連携については、目標の意識化はできているが、実施方法について課題がまだ残っている。 ③ 教育課程プロジェクトを立ち上げ、各種検討委員会を設置し、学年部・教科部と連携しながら、これまで3回の全体会議を行った。新教育課程は3月末完成予定である。

目標評価シート

附属東雲小学校

(保体部)

学校教育 目標	国際社会の中で、主体的に生きる心豊かな人間の育成をめざして、たくましい体力、強靱な意志力、創造的な思考力・判断力・表現力の育成を根幹とし、道徳性という緑したたる葉と美的情操という輝かしい花をつけた実践力のある子どもを育てる。 『 落ち着きがあるなかでエネルギーが感じられる学校 』
部目標	「しなやかなところからだづくり」をめざして 生きること（生活）を楽しむ児童の育成 —行事や取り組みのめあてを明確にして—
教師の取 り組み	○行事や取り組みのねらいやめあてを再確認し、効率的且つ効果的に進めていく ・態度面だけでなく運動技能の向上を図る（運動会、リズム縄跳） ・健康生活調べや検診の実施をもとに朝食や歯磨き等の基本的知識や習慣を身につける（健康生活調べ、各種検診、食、健康）
達成↓ 子どもの 姿	○安全を意識し仲間とかかわりながら積極的に体を動かすことができる ＝体力の向上、楽しむ、安全＝ ・運動技能の向上をめざし自ら体を動かしている（7割…児童観察） ・仲間の存在に気づき共に体を動かしている（7割以上…児童観察） ○自分のところからだを見つめ生活を改善しようとする ＝知識、習慣＝ ・健康生活調べの実施や検診等から、生活を見直そうとしていたり見直す点に気づいたりしている（7割以上…調査用紙のふり返りの読み取り、データの比較）
到達度 （中間）	3 どちらもいえない
下半期の 活動	・健康生活しらべの2回目実施により、1回目との比較で一人一人が生活改善の達成または新たな課題に気づく ・リズム縄跳びを通して、運動技能の向上をめざしたり集団で運動する楽しさに気づいたりする
到達度評 価 （年度末）	4 おおむね達成 ・なわとび等体育的取り組み期間中においては運動場で練習する姿を多く見ることができた。一人一人が自分の技術の向上を目指しつつ、ほぼ集団で活動し、異学年の交流も見られた。 ・健康生活調べのふり返りは保体部でも全て目を通し、その傾向を参考に学年や個人への指導にいかした。 ・データの比較で歯磨き実施の向上は認められるが朝食の摂取率は若干下がっていた。 (未歯磨率4月：5.1%→10月：0.8%)(朝食摂取率4月：91.6%→10月：89.4%)

目標評価シート

附属東雲小学校

(児童部)

学校教育 目標	国際社会の中で、主体的に生きる心豊かな人間の育成をめざして、たくましい体力、強靱な意志力、創造的な思考力・判断力・表現力の育成を根幹とし、道徳性という緑したたる葉と美的情操という輝かしい花をつけた実践力のある子どもを育てる。 『 落ち着きがあるなかでエネルギーが感じられる学校 』
部目標	児童の安定した心・生活づくり
教師の取 り組み	○東雲小学校の一員としての所属感を味わい、互いのつながりを実感して児童自ら生活をつくるができるようにする。 ○社会の一員としての自覚をもち、登下校のマナーの向上、安全を確保しようとする意識や態度を育てる。 ・縦割り活動、児童会活動への評価と言葉による働きかけ。 ・登校班別集会、登下校の情報の共有化と日々の指導の徹底。 ・生活目標の意識化と評価。 ・生活心座談会、職員会における児童の様子情報の共有化と指導。
達成した 子どもの 姿	○東雲小学校の一員としての所属感を味わい、互いのつながりを実感して児童自ら生活をつくっている。 ・縦割り活動（縦割り遊び、縦割り掃除）で自分の役割を自覚し協力して遊んだり掃除をしたりしている。（7割以上…児童観察） ・代表委員会や学級会で話し合い、児童会集会活動を運営し参加している。 (7割以上…児童観察) ○社会の一員としての自覚をもち、登下校のマナー向上、安全の確保をめざしている。 ・周りの人を意識した登下校ができている。 (7割以上…児童観察、児童からの情報、保護者の登下校指導アンケート) —うるさいと感じないトーン、独占しない歩道の歩き方—
到達度 （中間）	3 どちらもいえない
下半期の 活動	・「しののめまつり」（児童会集会活動）、「6年生を送る会」（児童会集会活動・縦割り活動）、「しののめ発表会」（学校行事）の実施 ・「バスの乗り方教室（広電の方をお迎えして）」、登校班別集会の実施 ・「登下校を見直そう（代表委員会、学級会）」（児童会活動）の取り組み
到達度評 価 （年度末）	3 どちらもいえない ・縦割り掃除では役割分担をして掃除をしている。多くの児童は自分の役割を果たしているが、指摘されてもきちんと掃除することができない児童の姿も見られる。 ・登校班別集会や各学級での話などで、登下校のルールやマナーを守ることの大切さを話し考える場を設けている。しかし、教師や保護者の下校指導での気づき、児童の情報からみると、登下校時のルールやマナーに課題が残る。

目標評価シート

附属東雲小学校

(研究部)

学校教育 目標	国際社会の中で、主体的に生きる心豊かな人間の育成をめざして、たくましい体力、強靱な意志力、創造的な思考力・判断力・表現力の育成を根幹とし、道徳性という緑したたる葉と美的情操という輝かしい花をつけた実践力のある子どもを育てる。 『落ち着いたなかでエネルギーが感じられる学校』					
部目標	今と将来を見据えて、創造的な思考・判断・表現ができる教師に！ 授業力を高める					
教師の取 り組み	・校内研修や公開研究会などで授業提案を行い、授業づくりについて議論する。 公開研究会 年間3回 校内授業研究 年間13回					
	・小・中学校の連携を強化し、授業づくりに関する検討を行う。 小・中授業の相互参観、合同教科部会の実施、合同研究会(2010.11.19)の開催					
達成した 姿	・これまで当たり前に行ってきたことを問い直してみる(各自が日常の授業で)。 ①これまでの自分の授業にはなかった新しい視点で授業をつくることができる。 ②教師自身が授業力の高まりを自覚できる。 ③児童に力がついている。 ※以上3点について4段階の自己評価(7割以上の教員の肯定的評価)					
到達度 (中間)	3 どちらともいえない					
下半期の 活動	・小・中合同公開研究会 ・校内授業研究 6回 ・元筑波大学附属小学校教諭 露木 和男氏による授業公開と授業について語る会					
到達度評 価 (年度末)	4 おおむね達成 上記①②③についての自己評価を集計したところ次の結果が得られた。					
		4	3	2	1	肯定的評価の割合
く り 覚	①新しい視点で授業づ	3人	12人	2人	0人	88%
	②授業力の高まりの自	1人	15人	1人	0人	76%
			③児童の力			94%
	※4…たいへんよくできている 3…まあまあよくできている 2…あまりできていない 1…全くできていない 結果から部目標はおおむね達成できたと判断した。次年度以降は、相互評価など新たな評価方法の導入を検討し、より正確な判断を行えるようにしたい。					

目標評価シート

附属東雲小学校

(低学年部)

学校教育 目標	国際社会の中で、主体的に生きる心豊かな人間の育成をめざして、たくましい体力、強靱な意志力、創造的な思考力・判断力・表現力の育成を根幹とし、道徳性という緑したたる葉と美的情操という輝かしい花をつけた実践力のある子どもを育てる。	
部目標	自分の力で生活をつくり、仲間と共に学び合う子どもの育成 ○生活をつくる ○共に学び合う ・自力で生活リズムを整える ・友だちの思いを最後まで聞く ・自力登下校する ・最後まではっきりと話す	
教師の 取 り 組 み	・学年、学級集会等における教師の共通確認及び保護者との連携、登下校の情報共有 ・日々の学級経営、給食指導、教室の自由な行き来 ・授業づくり(研究部との連携)、基本的な生活・学習習慣の徹底指導	
	○ルールとマナーを意識しながら、自力登下校ができている。 達成 ↓ 子どもの姿 ＜7割…児童の自己評価シート、児童からの情報収集、保護者のアンケート＞ ○時間を意識して行動している。＜7割…児童観察、日々の記録＞ ○身だしなみを整え、身の整理整頓ができている。＜7割…児童観察＞ ○友だちや教師の話を最後まで集中して聞いている。＜7割…児童観察＞ ○相手や場に応じた正しい言葉づかいを意識しながら、伝えたいことを最後まではっきりと伝えることができている。＜7割…児童観察＞	
到達度 (中間)	3 どちらともいえない	
下半期の 活動	・児童会の動きともタイアップした自力登下校についての自己評価、意識調査などもとに、具体的な場面を通じた指導を継続する。 ・学年、学級の枠を超えた給食交流…低学年部内で、給食時間に指導者が気軽に入れ替わりながら、児童の実態把握と給食時間の過ごし方、ルールについて共通認識を図る。特に前期はできなかった特別支援学級との給食交流を必ず実施する。(12月~3月) ・定期、不定期の学年部会による情報交流を行い、生活指導に関する意識統一を図る。	
到達度評 価 (年度末)	3 どちらともいえない ＜個々の意識は高まったが、集団としての行動に結びつかない弱さが残る＞ ・児童会で決定した登下校の心得カードをほぼ全児童が常に携帯している。個々のマナーへの意識は確実に高まったが、時間が経つと行動が伴わない場面も出てきている。 ・学年部内での給食交流を継続し、ある程度統一した指導のもとに、配膳から完食までの時間は短縮できた。特に最後まで食べきる意識は低学年全体に浸透できた。 ・朝の会の自力運営など、仲間の存在や時間を意識して行動できる場面も増えてきたが、集団が大きくなるほど、見通しや目的意識が希薄になる傾向が残る。	

目標評価シート

附属東雲小学校

(中学年部)

学校教育 目標	国際社会の中で、主体的に生きる心豊かな人間の育成をめざして、たくましい体力、 強靱な意志力、創造的な思考力・判断力・表現力の育成を根幹とし、道徳性という緑し たたる葉と美的情操という輝かしい花をつけた実践力のある子どもを育てる。 『 落ち着きがあるなかでエネルギーが感じられる学校 』
部目標	自分や友達よさを認め、ともに高まり合う子どもの育成 ーよいと思ったら取り入れ、実際に行動にうつすことを大切にしていー
教師の取 り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・登校班別集会、登下校の情報の共有化と日々の学級指導での徹底。 ・当番活動（給食・係・日直など）への評価と言葉による働きかけ。 ・宿泊学習の目標（身辺自立、自然とのふれあい、協力）の意識化と評価。 ・低学年からの学習・生活での積み上げ重視。学級内の諸問題の自力解決重視。
達成した 子どもの 姿	<ul style="list-style-type: none"> ○友達とともに生活をつくるできている。 ・周りの人を意識した登下校ができている。 (7割以上…児童観察、児童からの情報、保護者の登下校アンケート) ーうるさいと感じないトーン、独占しない歩道の歩き方ー ・自分の仕事や役割を果たしている。(7割以上…児童観察) ー当番活動などの役割を最後までやりきる、友達への声かけをするー ○友達とのつながりの中でともに学び合っている。 ・友達の思いを聞き、自分の思いと比べて話したり書いたりしている。 (7割以上…児童観察、ノート等の記述) ・経験を活かしながら次の学習や活動に臨んでいる。 (6割以上…児童観察、ノート等の記述)
到達度 (中間)	3 どちらともいえない
下半期の 活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「バスの乗り方教室」をきっかけに登下校のルールやマナーの向上を図る。 ・宿泊学習で学んだことを、日々の生活や学習、「しのめ発表会」で活かす。 ・学年部授業研を実施し、児童の実態に基づいた授業の在り方をさらに検討する。
到達度評 価 (年度末)	<p>3 どちらともいえない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りを意識した登下校を多くの児童は意識しているが、集団になるとルールやマナー を守ることができない場合もある。 ・朝の会、帰りの会、学習中など、友達の意見を聞いて話そうとしている。学習中は、 ノートへ聞いたことを書くこともできるようになっている。ノートへいねいに書くこ とを定着させたい。

目標評価シート

附属東雲小学校

(高学年部)

学校教育 目標	国際社会の中で、主体的に生きる心豊かな人間の育成をめざして、たくましい体力、 強靱な意志力、創造的な思考力・判断力・表現力の育成を根幹とし、道徳性という緑し たたる葉と美的情操という輝かしい花をつけた実践力のある子どもを育てる。 『 落ち着きがあるなかでエネルギーが感じられる学校 』
部目標	自分と異なる立場や意見を理解し、自己と集団（縦割・学級・学年・全校）を高めよ うと活動する子どもの育成
教師の取 り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の充実を目指した指導の徹底。 ・基本的生活習慣の見直し。 ・学校のリーダーとしての育成を目指した評価と言葉による働きかけ。
達成した 子どもの 姿	<ul style="list-style-type: none"> ○友達とかかわり合いながら学習し、自分の力を高めることができる。 ・友達の話を自分の考えと比べながら聞き、それに対する意見を書いたり話したりでき る。(7割以上…児童観察) ・自ら課題を設定し、計画的に学習を進めることができる。(8割以上…児童観察) ○生活を整え、正しい判断や行動ができる。 ・提出期限を守ることができる。(9割以上…担任データ) ・自ら進んで、気持ちの良いあいさつができる。(7割以上…児童観察) ○他（周りの人や状況）を意識し、リーダーとしての自覚をもって行動する。 ・周りの人を意識し、気を配りながら登下校ができている。(8割以上…自己評価) ・学校内外で、下学年に対して注意したり評価したりすることができる。 (8割以上…自己評価)
到達度 (中間)	3 どちらともいえない
下半期の 活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで挨拶できるように求めていく。 ・リーダーとしてどうあるべきか、行事ごとにふり返る。 ・放課後に行っている「道場（補習）」は、個人指導の場として継続していく。 ・小学校生活、学年のまとめとして成長した姿を示し、次年度へつなげる。
到達度評 価 (年度末)	<p>3 どちらともいえない</p> <p>リーダーとしての自覚も持ち、他者に対する働きかけはよくなってきた。しかし、学 習や生活などの個人の課題が改善できない者もあり、個人差が大きくなった。</p>